

国立国会図書館 調査及び立法考査局

Research and Legislative Reference Bureau
National Diet Library

論題 Title	標題紙、はしがき、目次、プログラム、奥付
他言語論題 Title in other language	Foreword / Contents / Program
著者 / 所属 Author(s)	山田 敏之 (YAMADA Toshiyuki) / 国立国会図書館調査及び立法考査局長
書名 Title of Book	「科学技術立国」を支えるこれからの研究者育成: 科学技術に関する調査プロジェクト報告書 (Fostering Future Researchers in Support of the Science-and-Technology-Oriented-Nation Concept)
シリーズ Series	調査資料 2019-4 (Research Materials 2019-4)
編集 Editor	国立国会図書館 調査及び立法考査局
発行 Publisher	国立国会図書館
刊行日 Issue Date	2020-02-28
ページ Pages	—
ISBN	978-4-87582-854-9
本文の言語 Language	日本語 (Japanese)
摘要 Abstract	—

* この記事は、調査及び立法考査局内において、国政審議に係る有用性、記述の中立性、客観性及び正確性、論旨の明晰（めいせき）性等の観点からの審査を経たものです。

* 本文中の意見にわたる部分は、筆者の個人的見解です。

科学技術に関する調査プロジェクト2019報告書

「科学技術立国」を支える これからの研究者育成

2020年2月



国立国会図書館
調査及び立法考査局

科学技術に関する調査プロジェクト 2019 報告書

**「科学技術立国」を支える
これからの研究者育成**



2020 年 2 月

国立国会図書館
調査及び立法考査局

- * 本報告書は、国政審議の参考に供するために取りまとめたものです。
- * 本報告書に掲載した論文等は、調査及び立法考査局内において、国政審議に係る有用性、記述の中立性、客観性及び正確性、論旨の明晰性^{めいせい}等の観点からの審査を経たものです。
- * 本報告書に掲載した論文等のうち、意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りしておきます。
- * 本報告書に掲載された論文等を全文又は長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当局調査企画課（bureau@ndl.go.jp）にご連絡ください。



パネリスト報告風景



パネルディスカッション風景



ファシリテータ 綾部 広則氏



パネリスト 天野 絵里子氏



パネリスト 榎木 英介氏



パネリスト 隠岐 さや香氏



パネリスト 林 隆之氏



パネリスト 石渡 裕子

はしがき

国立国会図書館では、科学技術政策について国会議員の皆様が議論・検討し、また、立案等を行う際によりどころとなる正確かつ客観的な情報を提供することを目的にして、平成 22 (2010) 年度から毎年いくつかのテーマを設定して、外部の学識経験者の方々と連携して調査を実施しております。

令和元 (2019) 年度は、「ソーシャルメディアの技術とその影響」、「ポスト 2020 の科学技術イノベーション政策」及び「「科学技術立国」を支えるこれからの研究者育成」の 3 つのテーマを選び、調査を実施しました。本報告書は、このうちの「「科学技術立国」を支えるこれからの研究者育成」をテーマにして令和元年 9 月に開催したシンポジウムの記録等を取りまとめたものです。

シンポジウムは、21 世紀に入り科学技術イノベーションへの関心が高まる一方で、博士課程進学者や発表論文数の減少など「科学技術立国」の足元が揺らいでいるという共通の状況認識に立って、それぞれ専門分野を異にする天野絵里子氏、榎木英介氏、隠岐さや香氏、林隆之氏の 4 名の有識者から研究者育成の現状や課題を幅広い視点から報告していただいた後、聴衆の方からの質問に応える形で、綾部広則氏をファシリテータとするパネルディスカッションを行いました。本報告書では、4 氏の報告とパネルディスカッションの記録に加えて、綾部氏による解説を掲載しております。

本報告書が科学技術政策のみならず、関連分野に関する国政審議、議員の皆様の問題理解のお役に立ち、またこの問題に関心を寄せる方々に広く活用していただければ幸いです。

令和 2 年 2 月

国立国会図書館 調査及び立法考査局長 山田 敏之

「科学技術立国」を支えるこれからの研究者育成

目 次

はしがき	山田 敏之	
プログラム		1
第Ⅰ部 パネリスト報告		
開会挨拶	綾部 広則	3
開催趣旨の説明と問題提起	石渡 裕子	5
プレゼンテーション資料		5
報告		11
パネリスト報告 1		
地べたからみた若手研究者問題四半世紀—何が変わり何が変わらないのか—	榎木 英介	15
プレゼンテーション資料		15
報告		23
パネリスト報告 2		
研究者の視点に立って—京都大学学術研究支援室（KURA）におけるURAの取組—	天野 絵里子	27
プレゼンテーション資料		27
報告		41
パネリスト報告 3		
研究者養成問題の背景・構造	林 隆之	45
プレゼンテーション資料		45
報告		51
パネリスト報告 4		
「イノベーション」政策と学術の関係—歴史的視点から—	隠岐 さや香	55
プレゼンテーション資料		55
報告		59
第Ⅱ部 パネルディスカッション		
63		
解説		
「ポストク問題」から再考する研究者育成の課題	綾部 広則	77

Fostering future researchers in support of the Science-and-Technology-Oriented-Nation Concept

Contents

Foreword	YAMADA Toshiyuki	
Program		1
Part I Presentations from Panelists		
Opening remarks	AYABE Hironori	3
The subject matter and objectives of this program	ISHIWATARI Hiroko	5
Presentation		5
Manuscript		11
Presentation 1		
Training junior researchers: What problems must be addressed in the 21st century?	ENOKI Eisuke	15
Presentation		15
Manuscript		23
Presentation 2		
How researchers see it: Initiatives at the Kyoto University Research Administration	AMANO Eriko	27
Presentation		27
Manuscript		41
Presentation 3		
Training researchers	HAYASHI Takayuki	45
Presentation		45
Manuscript		51
Presentation4		
A historical perspective on the relationship between government policies for promoting innovation and academic research.....	OKI Sayaka	55
Presentation		55
Manuscript		59
Part II Panel Discussion		63
Commentary		
Reconsidering the Challenge of Training Young Researchers from the Perspective of the Post-Doctoral Problem	AYABE Hironori	77

科学技術に関する調査プロジェクト 2019 シンポジウム

「科学技術立国」を支えるこれからの研究者育成

日 時： 令和元年9月10日（火） 14:00～16:30
 場 所： 国立国会図書館東京本館 新館講堂
 主 催： 国立国会図書館 調査及び立法考査局

プログラム

開会挨拶（綾部広則）
 開催趣旨の説明と問題提起（石渡裕子）
 パネリストによる報告
 地べたからみた若手研究者問題四半世紀—何が変わり何が変わらないのか—
 （榎木英介）
 研究者の視点に立って—京都大学学術研究支援室（KURA）における URA の取組—
 （天野絵里子）
 研究者養成問題の背景・構造（林隆之）
 「イノベーション」政策と学術の関係—歴史的視点から—（隠岐さや香）
 パネルディスカッション

ファシリテータ

綾部 広則（早稲田大学理工学術院教授、国立国会図書館客員調査員）
 九州大学理学部卒業、東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得退学、博士（学術）。東京大学助手、産業技術総合研究所特別研究員等を経て、現職。科学技術社会論学会副会長、日本科学史学会全体委員、科学社会学会理事。専門は科学社会学・科学技術史。近年は、戦後日本の科学技術の社会史に関する研究を行っている。主な著作として、『科学論の現在』（勁草書房、共著、2002年）、『「新通史」日本の科学技術』（原書房、共編著、全4巻＋別巻、2011～2012年）など。

パネリスト

天野 絵里子（京都大学学術研究支援室 リサーチ・アドミニストレーター（URA））
 大阪大学人間科学部卒業、同志社大学大学院総合政策科学研究科博士後期課程修了、博士（技術経営）。1998年より京都大学、国際日本文化研究センター、九州大学で図書館職員として勤務し、システム管理、機関リポジトリ、参考調査、学修支援などの業務を担当。2014年より現職。図書館での経験をいかして研究者の成果発信、オープンサイエンスの推進を支援。その他、チーム研究に助成する学内ファンドの運用、URAの研修プログラムの運営や、人文・社会科学分野の研究を支援するプログラムの一環として、京都大学の研究者が関係する図書を紹介するウェブサイト「京大新刊情報ポータル」<<https://pubs.research.kyoto-u.ac.jp/>>の運営を担当。

榎木 英介（医師、一般社団法人 科学・政策と社会研究室代表）

東京大学理学部生物学科卒業、同博士課程中退、神戸大学医学部医学科卒業、医師免許を取得、博士（医学）。病理専門医、細胞診専門。神戸大学医学部附属病院、近畿大学医学部病理学教室を経て、2019年4月から赤穂市民病院病理診断科に勤務。病理医としての仕事の傍ら、自らが研究者としてのキャリアに迷い方向転換したこともあり、若手研究者のキャリア問題を考える活動を20年以上行う。2003年には特定非営利活動法人サイエンス・コミュニケーションを立ち上げ、代表理事に就任。主な著作として、若手研究者問題を概説した『博士漂流時代「余った博士」はどうなるか？』（ディスカヴァー・トゥエンティワン、2010年、科学ジャーナリスト賞2011受賞）、『嘘と絶望の生命科学』（文藝春秋、2014年）など。

隠岐 さや香（名古屋大学大学院経済学研究科教授）

東京大学大学院総合文化研究科博士課程満期退学、博士（学術）。フランスの社会科学高等研究院（EHESS）留学後、日本学術振興会特別研究員（PD）、東京大学特任研究員、玉川大学 GCOE 研究員、広島大学大学院総合科学研究科准教授を経て、現職。日本学術会議連携会員（2014～）。「科学者」という職業がいかに構想され、制度的な位置を与えられてきたかについて18世紀フランスを中心に研究。近年は、自然科学と人文社会科学の分岐など、諸科学間の役割分担についても関心を持つ。主な著作として、『科学アカデミーと「有用な科学」』（名古屋大学出版会、2011年、サントリー学芸賞2011受賞）、『文系と理系はなぜ分かれたのか』（星海社、2018年、中央公論新社新書大賞2019第2位）など。

林 隆之（政策研究大学院大学教授）

東京大学大学院総合文化研究科修了、博士（学術）。専門は科学技術政策、高等教育政策、科学計量学。大学評価・学位授与機構（現・大学改革支援・学位授与機構）助手、同助教授、同教授を経て、2018年より現職。文部科学省研究開発評価推進検討会委員（2007～）、文部科学省科学技術・学術審議会人材委員会委員（2012～2018）、独立行政法人科学技術振興機構科学技術人材育成費補助事業委員会委員（2014～）、内閣府総合科学技術・イノベーション会議専門委員（2014～2016）、文部科学省政策評価に関する有識者会議委員（2017～）、日本学術会議科学者委員会研究評価分科会委員（2018～）、文部科学省中央教育審議会大学分科会教学マネジメント特別委員会委員（2018～）、大学改革支援・学位授与機構客員教授（2018～）、文部科学省科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会委員（2019～）、国立大学協会国立大学法人における教育・研究の成果に係る評価検討会委員（2019～）などを歴任。

石渡 裕子（国立国会図書館専門調査員、調査及び立法考査局文教科学技術調査室主任）

お茶の水女子大学文教育学部卒業。国立国会図書館に入館後、主題情報部主任司書、国際子ども図書館児童サービス課長、国際子ども図書館資料情報課長、収集書誌部国内資料課長、収集書誌部収集・書誌調整課長、総務部副部長、利用者サービス部長、調査及び立法考査局専門調査員・総合調査室付を経て、現職。

※ 本報告書の編集作業は、国立国会図書館調査及び立法考査局文教科学技術調査室・課及び科学技術室が担当した。

調査資料 2019-4
科学技術に関する調査プロジェクト 2019 報告書
「科学技術立国」を支えるこれからの研究者育成

令和 2 年 2 月 28 日発行
ISBN 978-4-87582-854-9

編集 国立国会図書館調査及び立法考査局
発行 国立国会図書館

〒100-8924 東京都千代田区永田町 1 丁目 10 番 1 号
電話 03 (3581) 2331
E-mail bureau@ndl.go.jp

Science and Technology Research Project 2019

Fostering future researchers in support of the Science-and-Technology -Oriented-Nation Concept